

令和元年度 第2回環境マネジメントシステム改善委員会（メール会議）議事要旨

確認期間 : 令和元年 11 月 7 日～11 月 12 日

出席者 : 吉田 靖委員長, 巢山 弘介, 鈴木 隆, 塚田 真也, 蘭 悠久, 田中 秀和, 中務 明, 中井 誠一, 吉木 茂, 瀬戸川 浩, 岩倉 禎尚, 植田 敏也, 周藤 義男, 清水 ひかる, 藪野 彩夏, 周山 幸弘, 吉岡 英志, 田中 秀典

事務 : 澤谷 弘美, 小山 拓史, 上野 和将, 半田 雅也, 木村 千寿子

確認事項 :

1. 令和元年度第1回環境マネジメントシステム改善委員会議事要旨の確認

委員に対し、議事要旨（案）を送付し確認を依頼したところ、内容等に意見はなく、原案どおり議事要旨を確定した。

議題 :

1. 島根大学における節電の取組実行計画（冬季）の策定について

本年度の節電取組実行計画（冬季）の案を資料1として提示し、以下のとおり説明があった。

・「2. 節電目標 (1) 松江キャンパス」

令和元年度冬季の使用電力量の節電目標は、前年度の電力使用量以下とする。理由としては、前年度に重油の空調を一部電気に転換し、約 69,000kwh（前年度比 1.86%）増える見込みがあるが、省エネ取り組みが学内におおむね浸透してきたのではないかといい、2018 年度の電力削減実績が前年度比 7.1%削減であったこと、気温が例年通りの可能性が高いという見通しがあるため、このような設定をした。

使用電力量の前年度維持の達成には、目詰まりした空調フィルター清掃等の節電取り組みを行うことその他、設備機器更新で期待される節電効果により達成を目指す。

平成30年度設備機器更新の実績として、人間科学部改修工事（LED照明43台）、学生センター空調機更新（空調機11台）を行った。

参考として2010年度比としては8.4%削減、Co2換算でいえば24,800kg-co2、杉の木が1年間に吸収するCo2量の換算として約1,700本相当の節電となると説明があった。

節電の取組実行計画（冬季）については、本委員会で承認後、ホームページへ掲載すると共に全学への通知を行い、12月開催の役員会及び教育研究評議会で報告及び協力を依頼する旨説明があった。

委員より、設定温度の19℃が適切かどうか不明ということ、学生の節電意識が低いとポスター等による啓発が必要ということ、パソコンの電源をこまめに切るとは難しいため、スタンバイモードを活用してはどうかなどの意見があったが、審議の結果、原案のとおり承認された。

報告事項 :

1. 令和元年度夏季の使用電力量実績について

節電目標を前年度維持としたところ、今夏の実績は2.46%の削減となり、目標を達成した。

夏季の平均気温は例年通りであり、前年度工事で空調の一部を重油から電気に転換したことによる電力増加予想が1.8%あったにもかかわらず、大幅に電力を削減できた。

これは、空調フィルター清掃等の省エネ取り組み及びLED照明等の設備更新により、達成できたと報告があった。

これに対し、委員より、今夏の実績を学内外にPRしてはどうかとの意見があった。

2. 学長マネジメントレビューについて

令和元年7月30日に学長見直し会議を開催し、巢山副委員長より、前年度の学長マネジメントレビューでの、指示に対する改善状況について報告があった。

・目的及び目標の変更及び改善の必要性について

一定の基準に達し、定常化している内容を維持することも重要であるが、形式的になっている面もあるため、異なった視点からの課題の検討が必要である。

⇒ 今年度における6つの分野のうち、生活系のごみに特化していた「生活系」を「3R（リデュース・リユース・リサイクル）」として、什器や機器等も含めた3Rの推進により環境負荷のみならず新規購入経費も含めて低減する目的を新たに設定できるようにした。

・環境マネジメントシステムのその他の要素について

各部局等の実施内容の成果に対する意識が希薄になっている点が見受けられる。アウトカムを意識した成果指標を設定することで、次年度のActionの実質化を図りたい。

⇒ EMS改善委員会委員長より、各部局等へ平成30年度実施内容等報告において、次年度の重点計画へつながるようなアウトカムを意識した成果指標を示すこと、また、今年度実施内容計画においても、成果指標を設定するとともに、注力する項目を絞り重点をおいて計画することとして作成を依頼した。

また、今年度は、学長より次のとおり指示があった。

・環境マネジメントシステムのその他の要素について

各部局等において環境に関連する教育研究が行われているにもかかわらず、それがEMSの環境教育や環境研究の実績として報告されることが少ない。それは、構成員が日常業務とEMS活動は別物という意識のためだと思われる。環境に関連する教育研究そのものがEMS活動の一部であるという意識に転換し、環境報告書を充実させて欲しい。

SDGsをEMS活動に有効的に取り入れ、融合させることが必要である。目的及び目標の変更及び改善の必要性について、一定の基準に達し、定常化している内容を維持することも重要であるが、形式的になっている面もあるため、異なった視点からの課題の検討が必要である。

3. 松江キャンパス落ち葉清掃について

例年実施している落ち葉清掃について、令和元年11月13日(水)に実施するため、協力依頼の報告があった。

4. 生活ごみに対するマナーについて

生活ごみに対するマナーについて、以下のとおり報告があった。

本事業場においては、生活系ごみをもやせるごみ、食料品プラごみ、もやせないごみの3種類に分別の上、島根大学リサイクルステーションや設置されたごみ箱へ搬出することとしているが、昨今、分別不十分や、講義室等での生活系ごみの放置が多数発見されている。

掲示物により注意喚起を行っているが、これらの生活系ごみが持ち帰られることもなく、また、正しく分別され直されてもいない。講義室等に放置された生活系ごみに関しては、講義室等を利用した学外者から苦情が寄せられている。

以上のことから、生活系ごみの分別、発生した生活系ごみは自己責任において処分するなど、生活系ごみに対するマナーについて、掲示板及びメールにて通知する旨報告があった。

これに対し、委員からキャンパスのグローバル化を目指す観点から、今後、可能な範囲で英語併記を作成して欲しいとの意見があった。

5. 旧喫煙ハウスの再利用について

受動喫煙防止対策により閉鎖した6か所の旧喫煙ハウスについて、10月31日を期日として、各部局へ再利用の希望部局を応募したところ、再利用の希望部局は資料のとおりであったこと、今後、再利用希望部局への移管手続きを行う予定としていることについて報告があった。

これに対し、委員から屋外喫煙所について意見があったが、これについては、安全衛生委員会が所掌する内容であるため、今後、安全衛生委員会にて検討すると担当者から回答した。